

タイ国コンケン大学獣医学部の視察について

鳥取大学農学部共同獣医学科 獣医繁殖学教室 教授 菱沼 貢

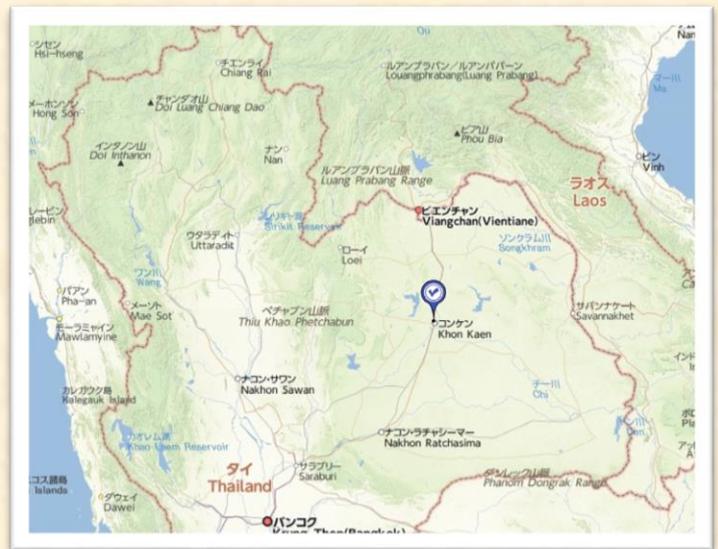
平成 27 年 8 月 6～12 日にタイ国・コンケン市に滞在し、コンケン大学獣医学部、農学部そして周辺農家を視察しました。今回は、コンケン大学の獣医学部について紹介します。

タイはインドシナ半島にある国で、ミャンマー、ラオス、カンボジア、マレーシアに囲まれています(図1)。日本との時差は 2 時間です(日本の 12:00 がタイの 10:00)。気候は雨期(5 月中旬～10 月)、乾期(10 月～2 月)、暑期(2 月中旬～5 月)の 3 つの季節に分けられ、今回の訪問時は雨期で、雨やスコールがほぼ毎日降っていました。コンケン市(コーンケン Khon Kaen)はタイの北東部(イーサーン)に位置し、首都バンコクから飛行機で1時間の距離にあります(図2)。

図1 インドシナ半島地図(Yahoo!地図より)



図2 タイ地図(Yahoo!地図より)



コンケン市はコンケン県(人口 179 万人)の県庁所在地であり、人口約 20 万人の近代的な都市です。

タイの大学ではバンコクにあるチュラロンコン大学が有名で、2009 年の世界大学ランキングで 138 位(日本の慶応義塾大学と早稲田大学は 142-148 位)、タイ国内の大学別ランキングでは 2 位となっています。コンケン大学は世界

大学ランキングで 551-600 位、タイ国内の大学別ランキングでは 7 位となっています。タイには獣医学部を有する大学が 6 校あり、国立大学はチュロンコン大学(バンコク)、カセサート大学(バンコク)、マヒドン大学(バンコク)、チェンマイ大学(チェンマイ)およびコンケン大学(コンケン)の 5 校、私立大学はマハナコン工科大学(バンコク)の 1 校です。ただし、コンケン大学が昨年、法人化されたことを訪問時に知りました。

コンケン大学は、コンケン空港から車で約 20 分、市の中心部から車で 5~10 分の距離にあります。キャンパスは広大で、キャンパス内には陸上競技場、セブンイレブンを有する食堂・売店(Food and Service Complex)、各種家畜(肉用牛、乳用牛、鶏、ダチョウ)の農場などが設置されており、メインストリートを車で通り抜けるのに 10 分以上かかります。キャンパス内には無料の循環バスが頻繁に走っており、学生は循環バスやバイクでキャンパス内を移動していました。コンケン大学は 17 の学部を有し、学生数は全校で約 40,000 名です。学生の服装は、学部学生は制服で、大学院生は私服です。コンケン市内は Wi-Fi(無線ネットワーク)が整備されており、ほとんどの学生がスマートフォンを持っていました。

コンケン大学獣医学部は 1986 年に設置され、教員 74 名とアシスタント・スタッフ 135 名、計 7 講座(department)で構成され、獣医学教育は 6 年制で、1 学年の学生数は 60 名です。

今回は鳥取大学国際乾燥地研究教育機構の獣医・畜産グループの調査として、尾崎准教授(獣医微生物学)、笛吹講師(獣医衛生学)と一緒に 8 月 7 日にコンケン大学獣医学部を訪問し、学部長の Dr. Chuchat(解剖学講座)と副学部長 3 名に鳥取大学農学部共同獣医学科の紹介をしました。コンケン大学獣医学部の状況は 7 分ほどの DVD を使用して紹介されました。DVD の最後には「コンケン大学獣医学部はアジアにおける人獣共通感染症の防疫のハブ(中継地点=中心的な役割)を目指す」と述べていました。お土産にいただいた獣医学部のマグカップの裏にも「Animal Health Hub for Community」と書いてありました(写真1)。タイが複数の国々と陸続きであることから、防疫の重要性が強調されているようです。

写真1 コンケン大学獣医学部のマグカップ



写真2 獣医学部棟



獣医学部の建物は、獣医学部棟(写真2)、病理解剖室・救急診療室・入院室・ペットショップを含む施設、小動物診療棟(外科手術・臨床検査棟に隣接)、産業動物診療棟で構成されており、ほとんどの施設が数年前に新築されました。獣医学部棟には研究室の他に解剖教育室や博物館が含まれ、博物館にはゾウの骨格標本が展示されていました(写真3)。写真4は建物の模型で、手前左側が病理解剖室・救急診療室・入院室・ペットショップを含む施設、手前右側が小動物診療棟(外科手術・臨床検査棟は5階建て)、後方左側が産業動物診療棟、後方右側の1階建ての小さな建物がバイオセーフティラボ(病原体の遺伝子検出による診断施設)です。獣医学部棟(写真2)はこの模型のさらに左側に位置しており、その後方には動物飼育エリア(肉牛、鶏、犬)があります。

写真3 ゾウの骨格標本



写真4 建物模型

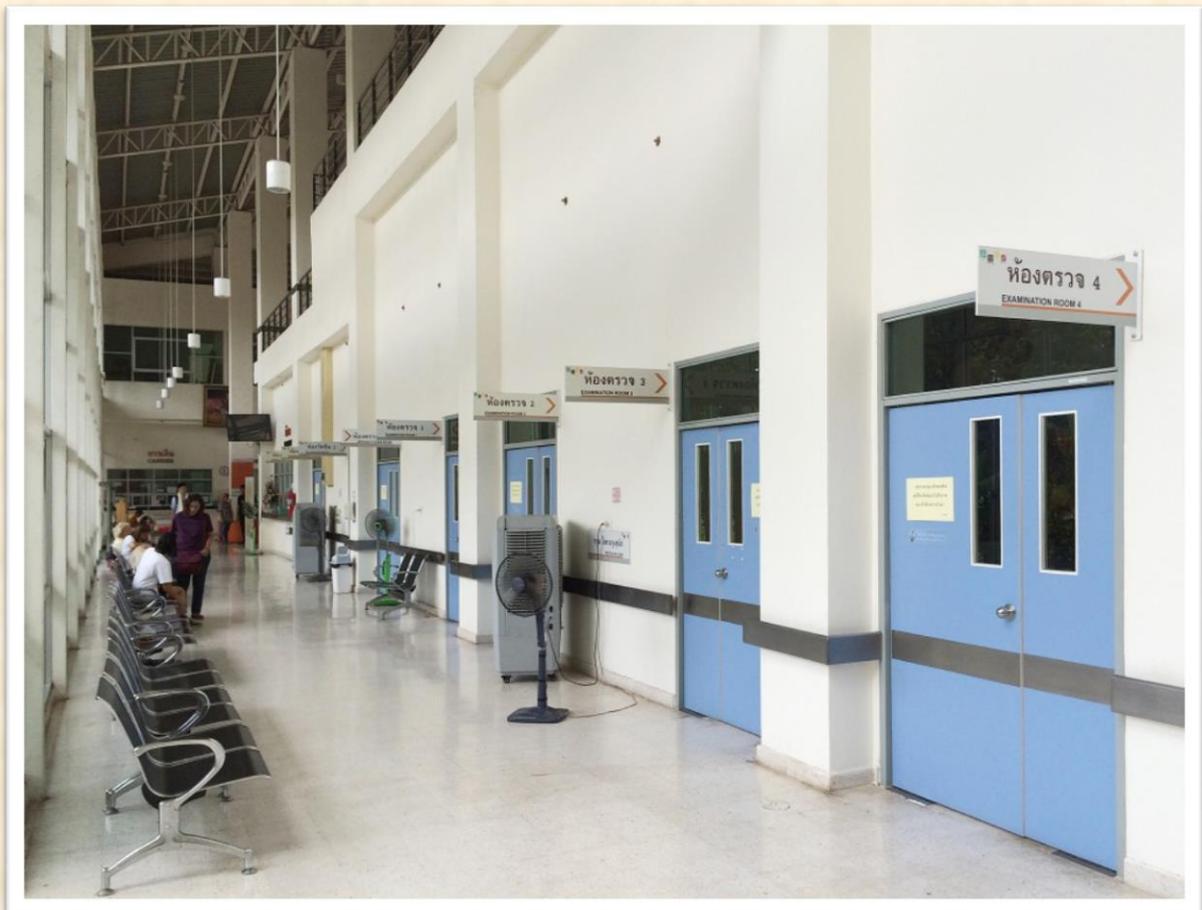


写真5 小動物診療棟



写真5は小動物診療棟の入り口、写真6は小動物診療棟の待合室です。検査室は5部屋ありました。

写真6 待合室



小動物診療棟の2階にはリハビリ用のプールが設置されていました(写真7)。臨床検査棟は将来的に血液バンクとしても使用する計画とのことでした。写真8は大動物診療棟の通路で、牛検査室、馬検査室、エックス線検査室、CT室、麻酔覚醒室などがありました。訪問時には、牛死亡胎子の摘出のため帝王切開手術を実施していました。調査時期は不明ですが、1日あたりの外来患者数は小動物120頭、大動物3頭とのことでした。海外からの交換留学生が約1か月間の臨床研修を受けているそうです。日本からは、8月中に日本獣医生命科学大学の学生がインターンシップでコンケン大学を訪問するそうです。

今回は短期間の訪問でしたが、タイ・コンケン大学獣医学部では非常に恵まれた環境下で教育・研究・診療を行っていることが分かりました。

写真7 リハビリ用プール

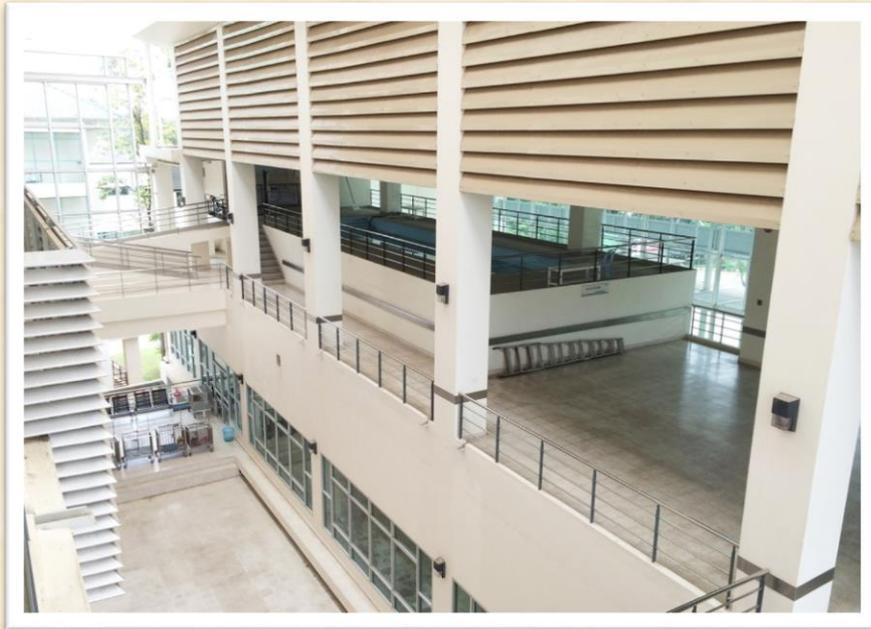


写真8 大動物診療棟

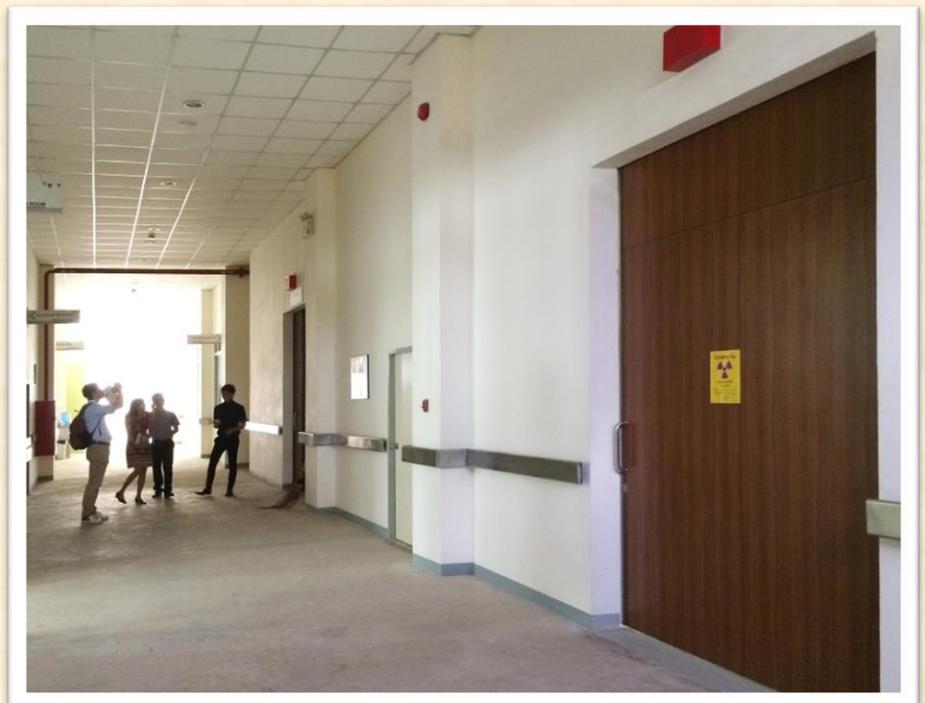


図1 インドシナ半島地図(Yahoo!地図より)

図2 タイ地図(Yahoo!地図より)

写真1 コンケン大学獣医学部のマグカップ

写真2 獣医学部棟

写真3 ゾウの骨格標本

写真4 建物模型

写真5 小動物診療棟

写真6 待合室

写真7 リハビリ用プール

写真8 大動物診療棟